

20120301 永田良一 発表追加資料1

私の家庭は東京では珍しい四世代家族です。

私の祖母、母、妻、娘と私がおります。

昨年の夏まで祖父も存命しておりました。

父が子どもに亡くなり、母に育てられましたが祖父母(母の実の両親です)と一緒に住んでいたために、経済的には苦しかったとは思いますが、困窮するほどではありませんでした。

その流れもあり、また私が長男であることもあり、現在は 10 年ほど前に私が家を購入して四世代で暮らしています。

私の家系は比較的長生きの家系なので四世代となりましたが、三世代で暮らすことは平均寿命が男女とも 80 歳を超えた日本では物理的には難しいことではないと思っています。

確かに一般的には嫁姑の問題など二世帯で暮らすことを嫌う傾向にあるようですが、我が家のケースではデメリット以上のメリットがあります。

私の娘はまだ 2 歳ですが、身近に娘から見たら祖母、曾祖母がいるため、両親以外にも接することができる大人がいます。

娘は祖母、曾祖母が大好きで両親以外にも身近に大好きな家族がいることは大切なことだと思います。

また、もう少し大きくなれば老人との接し方、人が老いていくことも学ぶことができると思っています。

私たち夫婦も万が一の時は私の母が娘の面倒を積極的に見てくれるので非常に助かっています。

安心して子どもを育てることができ、また孤独死も縁遠い理想的な家族なのかもしれません。

もちろんこういった家族の場合、個人の欲求のコントロールが必要な場面があることも事実ですが、それ以上に大切なものが我が家にはあります。

この大切なものが「豊かさ」であるかどうか、それをどのように計ればよいのかわからないのですが、きっと大切なものがあることは豊かであると考えて良いのではないかと社長のご講話で感じました。

現在の風潮では核家族が基本であり、“親と同居している＝親に援助してもらってる”と見られがちで、私から親と同居していること、更に四世代同居していることを親しい友人以外に言うことはありませんでした。

しかし、私のしていることは間違っていなかったと大変勇気を持つことができましたし、今後は私が四世代で生活していることも人に話せるようになれそうです。